

314 H
NI/6022

Iconographia Insectorum Japonicorum
Colore naturali edita
Volumen II (Coleoptera)

原色昆虫大圖鑑

第2卷 (甲虫篇)

11042

中 根 猛 彦	Takehiko Nakane
大 林 一 夫	Kazuo Ohbayashi
野 村 鎮	Sizumu Nomura
黒 沢 良 彦	Yoshihiko Kurosawa
共 著	

北 隆 館

HOKURYUKAN, TOKYO, JAPAN



序

昆虫に興味をもつ人達が未知の種を手にした時、まず最初にひらいてみるのは昆虫図鑑であろう。この意味で過去において昆虫図鑑が果してきた役割は大きい。そしてまた将来においても、その役割は決して軽くはならないであろう。近年における研究面での著しい進展は一面では「昆虫分類図説」にみられるような、高度な分類書をうみ出しながら、他面では各人の専門範囲の局限をもたらし、一般的な利用のためのよりよい昆虫図鑑の出現を必要としつつある。北隆館はこの機に応じ、伝統ある「日本昆虫圖鑑」を原色をもって再編しようとして企画されたが、我々はその第2巻をなす本書「原色昆虫大圖鑑」甲虫編の執筆を担当するに当って、この面で従来を脱した図鑑の完成を念願した。我々の専攻分野は現在なお多くの解決すべき問題を含んでおり、この願いは必ずしも満足すべき形で実現することは不可能であったが、幸にして多くの方々の援助と協力をえて、在来の図鑑の枠をはるかに越え、一般的な種のみならず幾多の稀種を含む多数の種を収録した大図鑑として、ここに出版の運びとなった。我々は今、我々の努力の結晶である本書の門出を、責任を果しえた大きな喜びと、そして一抹の危惧をもって見守っている。

思えば我々が本書の執筆について依頼を受けてから、既に5年の月日が過ぎ去っている。その間、著者・出版者双方に起った種々の困難な事情のために計画は延引を重ね、それが具体的に実行に移されたのは一昨年春以来のことであったが、我々と北隆館の非常な努力にも拘わらず、この完成までに実に2年余りの期間を費したのである。しかし、この間における甲虫分類学の進歩はめざましいものがあり、その成果の一半を本書にとり入れることができたことは、恐らく我々にも、また利用者各位にも幸であったと信ずる。我々は多くの支障をこえて作り上げられたこの図鑑が、広く研究者・同好者諸賢に利用され、欠くべからざる書となりうることを希望し且つ期待すると共に、今後の諸氏の御叱正によって、いつの日か更によりよい図鑑へと改訂され発展しうることを切に願っている。

筆をおくに先だって、我々はまずこの企画の遂行を我々に委ねられ、再三の遅延にも拘わらず、常に理解ある態度で我々の努力を援助された北隆館社長福田元次郎、同専務福田喜三郎両氏に深い敬意と謝意を表し、また多数の標本の撮影と図版構成に卓抜な技術を以て協力を惜しまれなかった北隆館戸村忠氏、我々の煩瑣な要求を容れつつ解説の完成に一意協力された同社山田映次氏、堀和子嬢に対し深く感謝したい。更に表現困難な甲虫類を優秀な技術で図版上に再現して下さった株式会社光村原色版印刷所諸員、難解複雑な解説の原稿を快く受け、印刷を支障なく完成された明石印刷株式会社諸員に対しても深謝の意を表す。

我々はまた常々我々の研究を援助され、図鑑のために標本を提供ないしは貸与され、または学名の決定に示唆を与えられ、或は解説のための資料を準備するなど、快く援助の手をさしのべられた方々、

朝比奈正二郎、阿部東、天野昌次、青木淳一、馬場金太郎、中条道夫、江崎悌三、福田彰、福田久美、船越俊平、後藤光男、行徳直巳、長谷川仁、服部仁、林匡夫、林長閑、樋熊清治、久松定成、平井雅男、平嶋義宏、穂積俊文、鴨脚慶夫、伊波興清、伊賀正汎、

今福伸一, 石田裕, 石田昇三, 石原保, 石川良輔, 市橋甫, 岩田久二雄, 井崎市左衛門, 上村清, 菊池孝彦, 木元新作, 川崎倫一, 小西正泰, 河野広道, 河野光子, 小杉廸子, 小島圭三, 草間慶一, 黒田祐一, 前原宏, 三宅義一, 宮本正一, 宮武睦夫, 森本桂, 永井正身, 永富昭, 西島浩, 西尾美明, 野淵輝, 小比賀正敬, 大林延夫, 大川親雄, 大倉正文, 大平仁夫, 大沢省三, 大竹勝, 岡田康稔, 奥谷禎一, 阪口浩平, 佐藤覚, 佐藤正孝, 佐藤納, 沢田高平, 沢田玄正, 芝田太一, 渋谷正健, 下山健作, 白水隆, 白畑孝太郎, 武井武一, 竹村芳夫, 玉貫光一, 田中和夫, 鳥飼兵治, 塚本圭一, 筒井嘉隆, 上野俊一, 梅谷猷二, 浦田明夫, 湯浅啓温, 安松京三, 山本讓三郎, 矢野宗幹, 矢野俊郎, 矢頭昇, 和田義人, 渡辺千尙, 海外では J.W.T. Armstrong, R.H. Arnett, Jr., J. Balfour-Browne, V. Balthasar, M. Bänninger, B. Benesh, R. Bielawski, S. v. Breuning, E.B. Britton, M. Cameron, O.L. Cartwright, K. Delkeskamp, L.S. Dillon, K. Ermisch, A.M. Easton, M. Franciscolo, H. Freude, E.F. Gilmour, J.L. Gressitt, M.H. Hatch, C.M.F. v. Hayek, L. Heyrovský, R. Jeannel, A. Jedlicka, J.N. Knull, C.H. Lindroth, E.G. Linsley, S.L. Straneo, Z. Tesař, E. Voss, W. Wittmer (アルファベット順)

等の諸氏に対し深い感謝を捧げたい。また鮮麗な描画で本書に光彩を加えられた, 関口俊雄, 立石鉄臣, 松岡虎夫の三氏, 更にまた原稿作成, 標本整備について協力された, 前山道代, 岩崎清子, 薦田温子, 井口良子, 榊尾順子, 柳沢順子諸嬢に対しても深く感謝する。

本書はこれら多数の方々の援助と協力をえて, はじめて今日ここに完成の日を迎えたのである。我々はこれらの方々に報いることができたことを深く喜びとする。

昭和38年5月30日

中 根 猛 彦*
大 林 一 夫
野 村 鎮
黒 沢 良 彦

* 本書に公表した研究の一部は文部省科学研究費の援助による。

原色昆虫大圖鑑

II (甲虫篇)

目次

序文	1
目次	3
概説	5
凡例	18
図版解説	1~384
和名索引	385
学名索引	413

図版解説

	頁		頁
ナガヒラタムシ科 Cupedidae <small>始原目</small>	1	デオキノコムシ科 Scaphidiidae	78~80
セスジムシ科 Rhysodidae <small>念目互目、不其の科増殖</small>	1	ハネカクシ科 Staphylinidae	81~100
ヒゲブトオサムシ科 Paussidae	1~2	アリヅカムシ科 Pselaphidae	101~102
ハンミョウ科 Cicindelidae	2~4	<small>イサキムシ科</small>	
オサムシ科 Carabidae	5~20	クワガタムシ科 Lucanidae ²⁾	103~110
ヒョウタンゴミムシ科 Scaritidae	20~22	クロツヤムシ科 Passalidae ²⁾	110
ゴミムシ科 Harpalidae	22~54	コブスジコガネ科 Trogidae	113~114
ホソクビゴミムシ科 Brachinidae	54	センチコガネ科 Geotrupidae	111, 113
コガシラミズムシ科 Haliplidae <small>水母類</small>	55	アツバコガネ科 Hybosoridae	113
ムカシゲンゴロウ科 Phreatodytidae	55	コガネムシ科 Scarabaeidae	112, 114~122
コツブゲンゴロウ科 Noteridae	55	コガネムシ科 Scarabaeidae ²⁾	123~138
ゲンゴロウ科 Dytiscidae	56~61	<small>マハナミシ科</small>	
ミズスマシ科 Gyrinidae	61~62	タマキノコムシモドキ科 Clambidae	139
<small>水母類</small> ダルマガムシ科 Hydraenidae <small>カムシ科</small>	63	マルハナノミダマシ科 Eucinetidae	139
ホソガムシ科 Hydrochidae	63	マルハナノミ科 Helodidae	139~140
マルドロムシ科 Georyssidae	63	<small>マルトゲムシ科</small>	
ガムシ科 Hydrophilidae <small>イマムシ科</small>	63~66	マルトゲムシ科 Byrrhidae	140
エンマムシダマシ科 Sphaeritidae	67	ヒラタドロムシ科 Psephenidae	143
エンマムシモドキ科 Synteliidae	67	ナガハナノミ科 Ptilodactylidae	141~143
ホソエンマムシ科 Niponiidae	67	ダエンマルトゲムシ科 Chelonariidae	144
エンマムシ科 Histeridae <small>ハネカクシ科</small>	67~70	ナガドロムシ科 Heteroceridae ²⁾	144
ムクゲキノコムシ科 Ptiliidae	71	チビドロムシ科 Limnichidae	144
ニセマキムシ科 Dasyceridae	71	ドロムシ科 Dryopidae ²⁾	144
タマキノコムシ科 Leiodidae	71~72	ヒメドロムシ科 Elmidae ²⁾	144~146
コケムシ科 Scydmaenidae	80	<small>タマムシ科</small>	
チビシテムシ科 Catopidae	73~74	タマムシ科 Buprestidae ³⁾	147~154, 155~156
シテムシ科 Silphidae	74~77	<small>コメツキムシ科</small>	
		クシビゲムシ科 Rhipiceridae	157
		コメツキムシ科 Elateridae	157~166

ヒゲブトコメツキ科 Trixagidae ³⁾	154
コメツキダマシ科 Eucnemidae ³⁾	167~168
ホタルモドキ科 Drilidae	169
ホタル科 Lampyridae	169~170
ジョウカイボン科 Cantharidae	170~173
ベニボタル科 Lycidae	173~176
マキムシモドキ科 Derodontidae	176
ヒメトゲムシ科 Nosodendridae	176
カツオブシムシ科 Dermestidae	177~178
ホソマメムシ科 Thorictidae	176
シバンムシ科 Anobiidae	179~180
ヒョウホンムシ科 Ptinidae	178
ナガシクイムシ科 Bostrychidae	180
ヒラタキクイムシ科 Lyctidae	180
コクヌスト科 Trogoxetidae	181~182
カッコウムシ科 Cleridae	182~184
ジョウカイモドキ科 Melyridae	185~186
ツツシクイムシ科 Lymexylidae ³⁾	187
ケシキスイムシ科 Nitidulidae	189~194
ネスイムシ科 Rhizophagidae	195
ヒメキノコムシ科 Sphindidae	195
ツツヒラタムシ科 Passandridae	195
ヒラタムシ科 Cucujidae ³⁾	187~188
ホソヒラタムシ科 Silvanidae	195
オオキスイムシ科 Helotidae	197
キスイムシ科 Cryptophagidae	196, 197, 216
ムクゲキスイムシ科 Biphyllidae	197~198
キスイモドキ科 Byturidae	198
コメツキモドキ科 Languriidae	198~199
オオキノコムシ科 Erotylidae	201~206
ヒメハナムシ科 Phalacridae	199~200
カクホソカタムシ科 Cerylonidae	200
ミジンムシモドキ科 Phaenoccephalidae	200
ミジンムシ科 Corylophidae	215
テントウムシ科 Coccinellidae	207~212
テントウダマシ科 Endomychidae	213~214
ミジンムシダマシ科 Discolomidae	215

ツヤヒメマキムシ科 Merophysidae	215
ヒメマキムシ科 Lathridiidae	215~216
ツツキノコムシ科 Cisidae	216
コキノコムシ科 Mycetophagidae	217~218
ホソカタムシ科 Colydiidae	218~219
ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae	220~233
ハムシダマシ科 Lagriidae	233~235
コブゴミムシダマシ科 Zopheridae	235
クチキムシ科 Alleculidae	235~236
タマムシモドキ科 Monommidae	237
キノコムシダマシ科 Tetratomidae	237
ツヤキカワムシ科 Boridae	237
クチキムシダマシ科 Elacatidae	237~238
ハネカクシダマシ科 Inopeplidae	238
チビキカワムシ科 Salpingidae	238
ホソキカワムシ科 Hemipeplidae	238
キカワムシ科 Pythidae	237
アカハネムシ科 Pyrochroidae	239~240
ナガクチキムシ科 Melandryidae ²⁾	240~246
クビナガムシ科 Cephaloidae	240
ハナノミダマシ科 Scraptiidae ²⁾	255~256
ハナノミ科 Mordellidae ²⁾	247~255
オオハナノミ科 Rhipiphoridae ²⁾	246
カミキリモドキ科 Oedemeridae	257~260
ツチハンミョウ科 Meloidae ³⁾	261~262
アリモドキ科 Anthicidae ²⁾	263~266
ニセクビボソムシ科 Aderidae	266
カミキリムシ科 Cerambycidae ¹⁾	267~318
マメゾウムシ科 Bruchidae	319~320
ハムシ科 Chrysomellidae	320~348
ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae	349~352
オトシブミ科 Attelabidae	353~356
ミツギリゾウムシ科 Brentidae	357~358
ホソクチゾウムシ科 Apionidae	358
ゾウムシ科 Curculionidae	359~379
オサゾウムシ科 Rhynchophoridae	380
キクイムシ科 Scolytidae	381~384
ナガキクイムシ科 Platypodidae	384

各科の執筆分担者は次の通り

1) 大林 一夫 (K. Ohbayashi)
註なし 中根 猛彦 (T. Nakane)

2) 野村 鎮 (S. Nomura)

3) 黒沢 良彦 (Y. Kurosawa)

概 説

本巻に収録した昆虫類はすべて鞘翅目 Order Coleoptera に属するものであって、一般には甲虫類 beetles とよばれる1群である。この類は昆虫類の中でのみならず、全動物群中で、もっとも多数の種が知られており、全世界で30万種に及び、百数十の科に分類される。それ故、我が国だけでも8000をこす種が知られ、恐らく将来1万以上の種が記録されることと思われる。また一方ではこの類の昆虫の大きさ・形はきわめて多様であって、体長もわずか1/4 mmの微小なものから10 cmをこえる巨大なものまである。したがって、その分類ははなはだ難しく、科以上の分別についても人により意見が異なっている。さらに甲虫類は生態・習性もきわめて変化にとみ、棲息する場所も水中より陸上、さらに樹上、海岸より高山に及ぶ。なお近年の傾向では摠翅目 Strepsiptera を鞘翅目に併合しているが、都合上、本巻では含めなかった。

鞘翅目ないしは甲虫類を的確に他の類から区別することは、その多様な形態から、必ずしも容易ではないが、一般に次のような特長をもつものと定義される。

完全変態を行なう。成虫の前翅(中胸につく)は多少とも硬化肥厚して上翅(翅鞘)に変化し、後翅(後胸につく)のみ膜質で飛行に際して働く。口器は咀嚼～嚙食に適し、頭は下面に明らかな咽頭域を有する。幼虫は少脚型か無脚型であって常に腹脚を欠き、また下唇腺(紡糸腺、または唾腺)を欠く。蛹は通常、裸蛹型であり、大腮は機能的でない。

また多くの場合、上翅が静止時に背面正中線上で左右相接し、後体部(中胸から後方)全体～大部分をおおうこと、前胸が大きく、後体部と関節して動かさうること、腹部の腹節のうち、前部の1~2節が退化し、後端1~2節が縮小し変形して腹部内に収められることなども特長としてあげられよう。

鞘翅目が昆虫類の中で占める位置や起源については、学者によって意見が異なるが、鱗翅目と膜翅目の間におかれることが多く、また時に革翅目と脈翅目の間におかれることもあり、膜翅目と脈翅目の間におく人もいる。起源は直翅類のゴキブリ目に近縁の祖先型を推定する説もあるが、近年の研究では脈翅目のセンブリ類 Sialoidea に近い祖先をもつとされる。化石として発見された甲虫で最も古いものは二疊紀上層からえられ、ナガヒラタムシ科に近く、また同紀下層からえられたものは脈翅目との中間を示すような形状であるという。なお我が国で発見された甲虫の化石は比較的新しく、すべて現生種と同定しうるものである。

成 虫 の 構 造

甲虫の体は他の昆虫と同じく、頭・胸・腹の3部からなり、頭には触角・口器、胸には翅・肢など付属物を具える。

頭 head : 背面は前端に上唇 labrum があり、その後にある頭楯 clypeus と関節し、時に合着し、またその前部下に隠される。頭楯は背部中央を占める前頭 frons (front) と横条(前頭会合線 fronto-clypeal suture)によって界されるが、時に条溝を欠く。前頭の後の頂部は頭頂 vertex とよばれ、さらにその後を後頭 occiput とよぶが、これらの界は明らかでなく、前頭両側にある眼 eye (複眼 compound eye) の前～下側を頬 gena, 後側を側頭 tempora (gena) といい、前胸に近接した部分は時にくびれ、頸 neck とよばれ、後方は多少とも前胸に引きこまれる。眼は小眼 facet からなり、その角膜レンズが外表をなす。前頭後方には時に1~2の単眼 ocellus を具える。触角 antenna は通常11節、しばしば減少し、またまれに12節、前頭の側部ないし前方につく。第1節(基節) scape と第2節 pedicel は第3節以下と多少とも異なり、時に第1節のみ伸長し第2節以下と膝状に角をなす。触角には種々の変形があり、各節が単純で円筒形の糸状 filiform のものから、数珠状 moniliform, 鋸状 serrate, 櫛状 pectinate, 扇状 flabellate, 鰓状 lamellate などの形が区別される。また端部の節が拡がり、あるいは肥厚したものは球程 club である。大腮 mandible は上唇の両側下方にあり、1対で通常左右から相対し、時にきわめて長く、内縁中央に歯や軟毛を伴う片部を有し、内縁基部は拡がり、稜縁や粗面な圧碎域 mola を具える。頭下面には小腮 maxilla・下唇 labium があり、小腮は両側にあり、担枝節 palpiger の上に4節の小腮枝 maxillary palpus をもち、2節の外葉 galea と明らかな内葉 lacinia を有する。小腮枝末節の形は変化がある。下唇は3部からなり、後方のは基節 submentum で頭蓋と関節し、中央部は前方のは前節 prementum で2~3節の下唇枝 labial palpus 1対を具え、基節 mentum といい、しばしば前方へ膜質の舌 ligula を伴い、時に舌両側は側舌 paraglossa を形成する。下唇の後方中央は咽頭域 gula で1~

2 条の咽頭会合線 gular suture で界される。

前胸 prothorax : 前胸背 (前背板, 胸背) pronotum は通常前胸の背面をさし, 一部のものでは下面の側縁に沿い前胸背側会合線 pronoto-pleural suture がある。下面中央は前胸板 (前胸腹板) prosternum でしばしば基節間を後方へ突出する前胸突起 prosternal process を具え, 両側は前胸会合線 prosternal suture により前胸側板 (前胸側片) hypomeron (propleuron) と界される。前胸側板は後端が内側へのび, 多少とも前基節孔 procoxal cavity の後壁をなす。

中胸 mesothorax : 前胸や後胸より小さく, 中胸背板 mesonotum は翅を開く時以外は中央の小部分, 小楯板 scutellum のみ露出し, 下面の中胸板 mesosternum は前胸板と同じく, 両側の中胸側板 mesopleuron は前側板 mesepisternum・後側板 mesepimeron からなる。上翅 (翅鞘) elytra (前翅 fore wing) はしばしば 9~10 条の縦溝 stria か点刻列を具え, 小楯板に沿い短い 1 条, 会合部小溝 scutellary striole を有することが多い。条溝 (列) とその間室 interval (interstice) は左右上翅の会合部 elytral suture から数える。上翅外縁 (側縁) は下面に折れかえることが多く, 側片 epipleuron とよばれる。

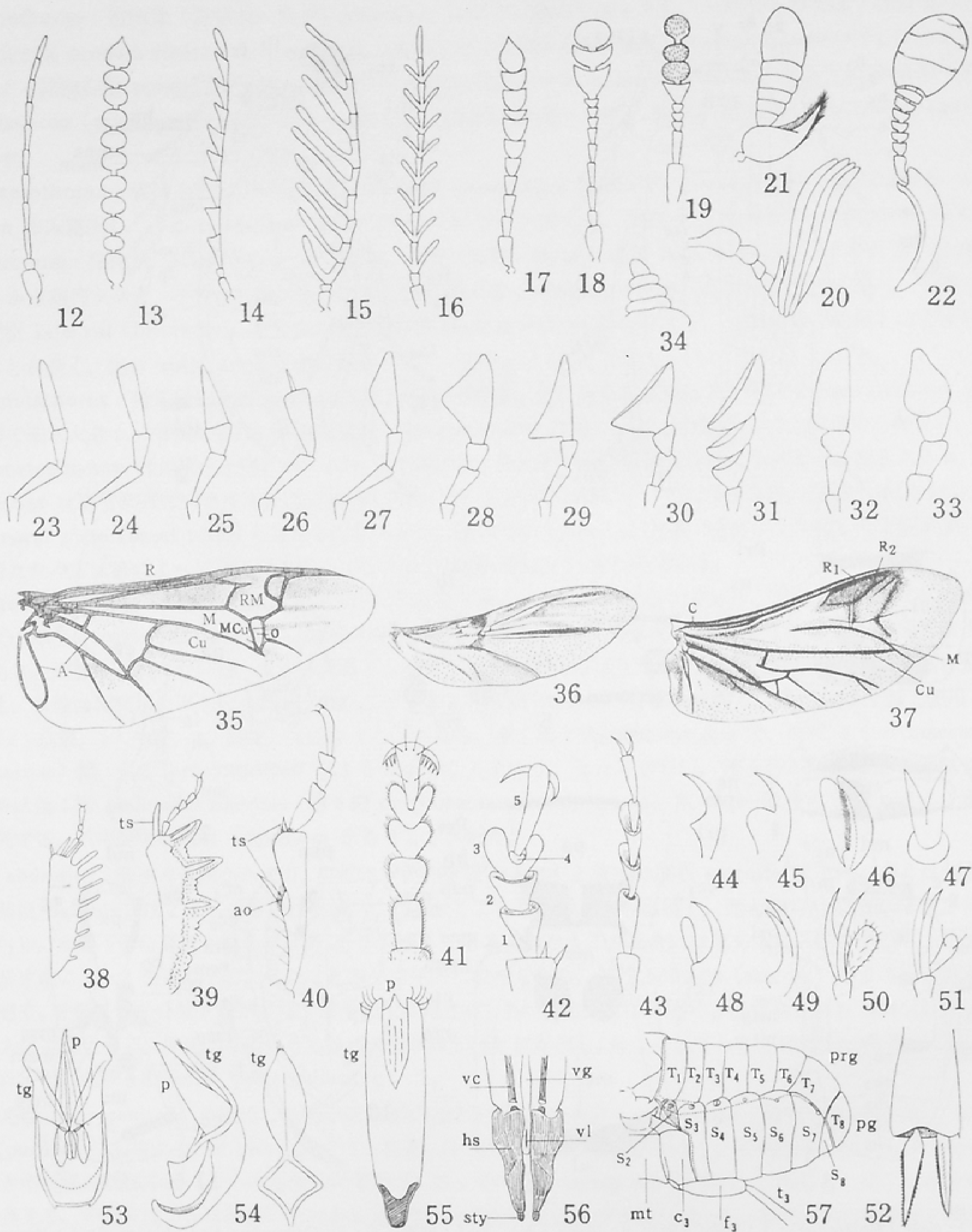
後胸 metathorax : 通常後胸背板 metanotum は静止時には上翅に全くおおわれる。後胸板 metasternum は多少とも方形で通常大きく, 両側は細長い後胸前側板 metepisternum に接し, 後者は静止時に上翅側片に接する。後胸後側板 metepimeron は大部分上翅にかくされ, 一部が時に後基節外端, 前側板後端に小片として認められる。後基節 metacoxa は通常横長で少なくとも後胸板後角に達し, 時に後側面は傾斜し, または剝られ, 後方へ板状に広がる腿節板 femoral plate (basal plate) を具えることもある。後翅 hind wing は膜質, 翅脈には大別して 3 型が知られ, 静止時のたたみ方は群によって特長があり, 一部の種では翅は短縮し, また消失する。

肢 legs : 基節・転節・腿節・脛節・跗節に分れ, 基節 coxa は基節孔にはまっており, 時に前・中肢では前角部に亜基節 (小転節) trochantin を認める。転節 trochanter は基節と腿節 femur の間にあり, 腿節との関節は多少とも斜である。腿節は下縁に沿い棘・齒を具えることがあり, 後腿節はしばしば肥大する。脛節 tibia は先端に通常 2 刺を具え, 外縁に齒突起を列生し, 刺を具えることもある。跗節 tarsus は分節しており, その数は分類上使用され, x-y-z (x: 前肢, y: 中肢, z: 後肢) で表わすことがある。多くは 5 節 pentamerous で, 時に 4 (tetramerous)~3 (trimerous) 節, 異節 heteromerous とは 5-5-4 のことをいう。また 5 節の時, 第 4 節が微小で第 5 節基部に固着する時は偽 4 節 pseudotetramerous (隠 5 節 cryptopentamerous) という。爪 claw は通常 2 本, 時に 1 本でまれに消失する。爪の間には爪板 empodium があることがある。

腹部 abdomen : 元来 9 体節からなり, 各節は背側の背板 tergite と腹側の腹板 sternite に分れ, 多くは側部の膜質部 (側板 pleurite) によって連結されるが, これを欠くこともある。腹板は硬く, 殆んど常に基部の 1~2 節が退化しており, 実際下面に認められるのは第 2~3 節からである (ふつうこの場合には認められる節を基部から数える)。また通常末端の 1~2 節は縮小し, または変形して体内に収められる。気門 spiracle (stigma) は多くは各節両側の膜部に開く。背板は後端の第 9 節がしばしば前節下に隠され, また静止時には上翅によっておおわれ, 時に後方の一部, まれに大半を露出する。外面より認めうる腹端の背板はしばしば露出し, 他より大きいことが多く, 尾節板 pygidium とよばれ, その前節を前尾節板 propygidium という。

♂ 交尾器 male genitalia の硬化した部分は基本的には 3 部分, 中央片 median lobe (陰莖 penis)・側片 lateral lobe (paramere)・基片 basal piece に分けられる。中央片は交尾器の中心をなし, 射精管 ejaculatory duct が内側を貫き端部で外に開くが, 多くの場合内側で管は拡がって内袋 internal sac を形成し, 内面にしばしば骨片や短剛毛域を具える。中央片はまれに膜質のことがある。側片は左右に対をなすが時に合一し, 基片と共に中央片を環状に囲む場合もある (包片 tegmen, 側片+基片)。基片は側片の基方にあつて, それと関節または合着し, 時に中央片基部に合一する。♂ 交尾器は分類上重要な特長になりうるもので, 三片型 trilobate type を基とし種々に変形している。

♀ 交尾器 female genitalia の中心は膜質の卵管 oviduct であり, その端部は多少とも拡がり, 腔 vagina となり, 細長い 1~2 の骨片 (baculum, valvifer) に支えられることがあり, 末端は開口する。開口部 valva は両側から対をなす尾片 hemisternite (coxite) に抱かれ, 尾片の端部には 1~2 節の尾端片 stylus をつけることがある。腔の基端は盲嚢で交尾嚢 bursa copulatrix とよばれ, 時に骨片等を具え, また腔基端に連なって硬化した貯精嚢 spermatheca を有するものもある。産卵管 ovipositor は尾片, 時に第 8~9 腹節によって形成される。



12~22: 触角; 12: 糸状; 13: 数珠状; 14: 鋸状; 15: 櫛状; 16: 双櫛状; 17: 棍棒状; 18: 端部球桿状; 19: 同 (ガムシ型); 20: 鰓状; 21: 異形; 22: 膝状で端部球桿状。23~33: 小脛枝, 末節は 23: 円筒形; 24: 同 (末端切断状); 25: 円錐形; 26: 小針状; 27: 斧形; 28: 同 (強い); 29: 直角三角形; 30: 幅広い (横長) 三角形; 31: 横長 (各節); 32: 刀尖形; 33: 洋梨形; 34: 不動性 (各節)。35~37: 後翅; 35: オサムシ型 (*Carabus*); 36: ハネカクシ型 (*Scaphidium*); 37: ホタル型 (*Epilichas*)。38~40: 前脛節; 38: 棘が列生する; 39: 歯がある; 40: 端刺転位と櫛状器官。41~43: 跗節; 41: 第4節は二片状で爪は櫛状; 42: 偽4節で第3節は二片状; 43: 第3・4節が (葉) 片状にのびる。44~51: 爪; 44: 歯がある; 45: 葉片がある; 46: 二裂 (櫛状片と葉状片に分れる); 47: 基部で左右合着する; 48: 附属片がある; 49: 二裂; 50: 爪板がある (多毛); 51: 同 (毛は2本)。52: 脛節端刺鋸状。53~55: 合交尾器; 53: 三片型 (*Epilichas*); 54: 馬乗型 (*Donacia*); 55: 鞘型 (*Ovalisia*)。56: 腹部側面図 (Haplogastra 型—*Lachnosterna*)。〔記号は前図版を参照されたい〕

検 索 表

甲虫の種の区別は別として、属以上の識別は必ずしも容易ではない。科以上の大別も多数の種を対象として共通の特長の違いをとり上げる必要があるために、中間的あるいは変則的なものの存在で、的確な区分が難しい場合がでてくる。ここには便宜的に近年の数著を参考として科までの検索を示すが、決して決定的なものではない点を御承知願いたい。今後不都合な点を改めてゆきたいと考えている。

鞘翅目の亜目の検索

1(2) 後基節は後胸板と動かないように合着し、中央で腹部第1腹板を完全に二分している。腹部はふつう6腹板が認められ、基方3節は合着し、間の界線は弱い。前胸背側会合線(下面両側にある)は認められる。跗節は5節。

食肉亜目 Adepaga

2(1) 後基節は後胸板と合着しない、もし合着している場合でも第1腹板を二分しない。前胸背側会合線はまれにのみ認められる。

3(6) 前胸背側会合線は認められる。後翅はふつう矩形室を有する。

4(5) 触角は糸状、先で太まらない。後翅は上翅下に収めるとき先を巻かない。後胸前側板は中基節に達する。跗節は5節。始原亜目 Archostemata

5(4) 触角は先が球桿をなすか、棍棒状に太まる。後翅は上翅下に収めるとき先を巻く。後胸前側板は中基節に達しない。跗節は1~4節。体は小さい。

粘食亜目 Myxophaga

6(3) 前胸背側会合線は認められない。後翅は殆んど常に矩形室を有しない。多食亜目 Polyphaga

始原亜目 Archostemata

ただ1科のみを含む。

体は細長く、両側平行。触角は長くて糸状、11節。腹部腹板は5節認められる。上翅は格子状に矩形点刻列を密接して具える。

ナガヒラタムシ科 Cupedidae

食肉亜目 Adepaga

この亜目はオサムシ主科 Caraboidea のみを含む。

オサムシ主科の科の検索

1(14) 後基節は上翅の側片縁まで達せず、後胸側板は第1腹板と接する。触角は基部1~4節を除き細毛を装う。陸にすみ、体表の一定位置に感覚毛を立

生する。肢は歩行に適応している。

(陸棲類 Geadephaga)

2(3) 後胸板は後基節の前に横溝(会合線)を有しない。後基節は小さくて左右相離れ、両者間に第1腹板の中央片が大きく露出する。触角は数珠状。

セスジムシ科 Rhysodidae

3(2) 後胸板は後基節の前に横溝を有する。後基節は大きくて左右相接し、第1腹板中央片は細小。触角はふつう糸状。

4(11) 中胸後側板は中基節に達する。

5(8) 後胸後側板は前側板と第1腹板の間に認められない。

6(7) 頭楯は触角の基点をこえて外方へ広がる。上翅は縦の条溝を有しない。前基節は後方が閉じる。前脛節端刺は2本とも先端につく。

ハンミョウ科 Cicindelidae

7(6) 頭楯は触角の基点をこえて外方へ広がらない。前脛節端刺の中1本は多少とも先端から離れる。

オサムシ科 Carabidae

8(5) 後胸後側板は前側板と第1腹板の間に小片として認められる。

9(10) 前脛節は内側に彎入がなく、2端刺とも先端につく。上翅の両側後方に切れこみがある。触角は多少とも数珠状か異形。

ヒゲブトオサムシ科 Paussidae

10(9) 前脛節は掌状に外歯突起を具え、内側に彎入があり端刺の1本は彎入の上端につく。上翅両側後方に切れこみがない。体はひょうたん形にくびれる。触角は糸状。

ヒョウタンゴミムシ科 Scaritidae

11(4) 中胸後側板は中基節に達しない。

12(13) 腹部腹板は6腹節が認められる。

ゴミムシ科 Harpalidae

13(12) 腹部腹板は7節(♀)か8節(♂)が認められる。

ホソクビゴミムシ科 Brachinidae

14(1) 後基節は上翅の側片に達し、後胸側板は第1腹板に接しない。触角は殆んど細毛を具えない。主に

テントウムシ科 Coccinellidae

1. トホシテントウ

Epilachna admirabilis Crotch

体長 6~9 mm。黄赤褐色，上翅の斑紋・中後胸・腹部中央は黒色で腿節は時に黒色。前胸背中央紋は黒く小楕円形から全体に拡がるものもある。腿節線は僅かに不完全で先端は腹節前縁近くで終る。背面は黄白色短毛を密生し，頭胸背は小さく密に，上翅は疎に大きく点刻され間に微細点刻を密に装う。成虫も幼虫もカラスウリの葉を食害する。分布：本州・四国・九州；支那。

2. オオニジュウヤホシテントウ

Epilachna vigintioctomaculata Motschulsky

体長 6.5~8 mm。赤褐~黄褐色，密に灰褐色毛を装う。胸背面の斑紋・小楕板・体下・腿節中央部は黒色。腿節線は前種に似る。頭は小さく密に，前胸背はより細かく密に点刻され，上翅は大小の点刻を密に装う。ジャガイモ・ナスなどの大害虫。コブオオニジュウヤホシテントウ subsp. *pustulosa* Kôno (b) は上翅会合部の黒紋が大きく，翅端上反部が幅広く，腿節は大部分黒色で時に脛節も黒い。アザミ類を食する。分布：北海道・本州・四国・九州；朝鮮・満州・支那・シベリア。

3. ニジュウヤホシテントウ

Epilachna vigintioctopunctata Fabricius

体長 6~7 mm。黄褐~赤褐色，前胸背と上翅の斑紋・後胸の側縁~全体は黒色。前種によく似るが，やや小形で半球形，上翅の肩部がはらず，上翅の斑紋はより小形である。ab. *nakana* Nakane et M. Araki (b) は上翅の第6~10 紋を欠く。幼・成虫共ナス類を食する。分布：本州・四国・九州・沖縄・奄美大島・トカラ諸島；支那。(2~4 は *Henosepilachna* 亜属)

4. ジュウニマダラテントウ

Epilachna boisduvali Mulsant

体長 7~7.6 mm。黄褐~黄赤色，上翅の斑紋・後胸の側縁部は黒色，時に腹節の中央が黒みをおびる。背面には黄白毛を密生し，頭胸背は小さく密に点刻され，上翅は粗大点刻の間に細かい点刻を密に具える。ウリ類を害する。分布：トカラ諸島・琉球；台湾・フィリピン・印度・濠州等。

5. シナマダラテントウ

Epilachna chinensis Weise

体長 4.5~5.5 mm。赤褐色，前胸背と上翅の斑紋は黒色，後胸側縁・腹節一部は黒みをおびる。背面には灰白毛を密生し，頭胸背はやや小さく密に点刻され，上翅は粗大点刻の間に小点刻を密に装う。腿節線は完全でその下縁は腹節後縁近くに達する。分布：対馬；支那。対馬産は subsp. *tsushimana* Nakane et M. Araki。

6. アカヘリテントウ

Rodolia narae Lewis

体長 4.5~6 mm。暗赤褐色，頭は黒色，上唇前縁・前胸背前外縁・上翅周縁は赤色で縁どられる。体下は赤褐色。背面は灰白毛が密生し，頭・前胸背は細かく密

に，上翅はより大きく密に点刻される。前胸背は隆条を具え，腿節は完全で下縁は腹節の中央に達し浅い弧を描く。分布：本州・四国・九州；シベリア・満州。

7. アカイロテントウ

Rodolia concolor Lewis

体長 5.5 mm。赤紅色~赤褐色，頭・中胸一部・後胸・第1 腹節・腿脛節は黒色。背面には黄白毛を密生し，細点刻を密に装う。前胸背隆条，腿節線は前種に似る。分布：本州・四国・九州。

8. ベニヘリテントウ

Rodolia limbata Motschulsky

体長 4.5~6.5 mm。黒色，前胸背の前外縁・上翅の周縁は幅広く橙紅色で縁取られ，上唇・触角・脛節・跗節・腹節の周縁も橙紅色。背面にはかなり密に黄白毛を具え，頭胸背は細点刻を密に，上翅はそれより少し粗く密に点刻される。カイガラムシ類を捕食する。分布：本州・四国・九州；シベリア・満州。

9. ベダリヤテントウ

Rodolia cardinalis Mulsant

体長 3.5~4 mm。橙赤色，頭・前胸背と上翅の斑紋・小楕板は黒色。体下は大體黒色で腹部の周縁は幅広く橙赤色，腿節大部分は黒色。前胸背外縁部はやや上反する。背面には黄白毛を密生し，細点刻を密に具える。濠州原産，イセリヤカイガラムシの天敵として有名である。分布：本州・四国・九州；台湾・北米等。

10. ダイダイテントウ

Rodolia okinawensis Miyatake

体長 3.2~3.9 mm。赤褐色，体下は殆んど黒色，腹節の周縁~全面が赤褐色，腿節は時に大部分黒色。上翅は前胸に比べて幅広い。小楕板は大きい。頭胸背は細かく密に，上翅はより細かく密に点刻される。背面は黄白毛を密生し，腿節線は完全で腹節の中央に達する。イセリヤカイガラムシを食する。分布：琉球・奄美大島。

11. アミダテントウ

Amida tricolor Harold

体長 4.0~4.2 mm。黄赤褐色，上唇・触角・頭胸背は黄褐色，前胸背の斑紋は黒色でその周辺は黄色。上翅は黒色と黄色の斑紋で美しく彩られる。頭胸背は小さく密に，上翅はそれよりやや大きく密に点刻される。食葉性。分布：本州・四国・九州。

12. フタスジヒメテントウ

Horniolus fortunatus Lewis

体長 3.0~3.2 mm。黒色，頭・上唇・触角・前胸背・上翅の斑紋・肢は赤褐色。前胸背両角は角ばる。前胸背の隆条は後方で開く。腿節線は完全で強く彎曲する。背面には金白毛を密生し，頭胸背は小点刻を密に，上翅は小点刻をやや粗く弱く具える。分布：北海道・本州・九州。

13. コクロヒメテントウ

Scymnus hilaris Motschulsky

体長 2.2~2.4 mm。黒色，頭(♂)・触角・上翅・肢・腹節末端は赤褐色，前胸背は前角を中心に縁が赤褐色で

縁取られる。背面は小点刻と灰白毛を密布し、会合線に沿って2本の点刻列を具えるが上翅の中央部で終る。前胸板はやや平行な隆条を有し、腿節線は完全。春夏に多く、アブラムシ類を捕食する。分布：北海道・本州・四国・九州；印度・ビルマ等。(Pullus 亜属)

14. ハレヤヒメテントウ

Scymnus hareja Weise

体長 1.9~2.5 mm。黒色，触角・口枝・頭・前胸背・上翅の斑紋と翅端・肢・腹節の周縁(幅広く)は黄赤~赤褐色。上翅の斑紋はごく小さい円形から大きく拡がるものまである。背面は白色毛を装い，細点刻を密に具える。前胸板の隆条はなく，腿節線は不完全。分布：本州・四国・九州・屋久島；台湾。(Scymnus 亜属)

15. クロヘリヒメテントウ

Scymnus hoffmanni Weise

体長 1.6~2.4 mm。黒色で光沢を有する。上唇・触角・頭は黄色，前胸背の側縁(幅広く)，前縁・上翅の斑紋は黄褐色~赤褐色。体下は殆んど黒色，腹節の末端・肢は黄褐色。背面は灰白毛を密生し，頭胸背は強く密に，上翅は大小の点刻をより粗く密に装う。各翅は会合線に沿い2大点刻列を具え中央より少し後で終る。前胸板は隆条を具え，腿節線は完全で強い曲線を描く。分布：本州・四国・九州・琉球；朝鮮・支那。(Pullus 亜属)

16. フトオビヒメテントウ

Scymnus miyamotoi Nakane et M. Araki

体長 2.0 mm。黒色，上唇・触角・前胸背の前縁・肢(腿節は暗褐色)・腹節の先端2節・上翅の斑紋は赤褐色。前胸背は凸隆し，外縁は軽く弧状。背面はやや短い灰白毛を密生し，頭胸背は小点刻を密に，上翅はそれよりやや大きく密に点刻される。腿節線は不完全。前胸板は隆条を具える。分布：トカラ諸島・琉球。(Scymnus 亜属)

17. セスジヒメテントウ

Scymnus patagiatus Lewis

体長 1.5~2.1 mm。黒色，触角・頭・前胸背の前縁と両側・上翅の斑紋と翅端・肢・腹節末端は黄褐~赤褐色。前胸背は黄~黒色，基部に黒い斑紋をもつものがある。背面は灰白毛を密生し，頭胸背は強く密に，上翅はやや密に小点刻を装う。分布：本州・四国・九州・琉球；台湾。(Scymnus 亜属)

18. フタホシヒメテントウ

Scymnus phosphorus Lewis

体長 1.7~2.3 mm。黒色，上唇・触角・前胸背の前縁・上翅の斑紋は赤褐~暗赤褐色。体下は殆んど黒色，腿節は暗赤褐色，跗節は黄褐色。背面は灰白毛を密生し，頭は細かく密に，胸背・上翅は頭よりやや大きく密に点刻される。腿節線は不完全でその凹みは非常に強く一様に点刻される。分布：本州・四国・九州。(Nephus 亜属)

19. セボシヒメテントウ

Scymnus seboshii Ohta

体長 2.2 mm。黒色，頭・上唇・触角・前胸背・肢・腹節の周縁は黄赤色。上翅斑紋と翅端は赤褐色，時に両者が結合する。各翅の斑紋が会合部で分れないことでハ

レヤヒメテントウ(14)と異なる。背面は灰白毛を密生し，頭胸背は小点刻を密布するが弱く，上翅の小点刻はやや密。分布：本州・四国・九州。(Scymnus 亜属)

20. クビアカヒメテントウ

Scymnus sylvaticus Lewis

体長 2.3~2.7 mm。黒色，頭・上唇・触角・前胸背・小楯板・上翅端・肢・腹節は赤褐色。前胸板は太くて長い隆条を具え，背面は白色毛を密生し，頭は小点刻を密に，前胸背は弱く密に，上翅はやや粗く密に点刻される。分布：本州・九州。(19, 20 は Scymnus 亜属)

21. フタモンクロテントウ

Cryptogonus orbiculus Gyllenhal

体長 2.2~2.8 mm。黒色，頭(♀は黒色)・上唇・触角・上翅斑紋・肢(腿節が♀は暗赤褐色)・前胸の前角・腹節の外縁は黄褐~黄赤褐色。前胸背の前縁は細く黄赤色で縁取られ，前角部は三角形の黄赤色紋を具える。背面は灰白毛を密生し，頭・上翅はやや粗く密に，前胸背は小点刻を密に装う。前胸板は前端で円く連なる2条の隆起を有する。分布：本州・四国・九州・奄美大島・沖縄；台湾・支那・印度・東南アジア。

22. ヒメフタモンクロテントウ

Pseudaspidimerus japonensis Nakane et M. Araki

体長 1.9~2.2 mm。黒色，前種によく似るが小形で頭は両性とも黄色~黄赤色。前胸板の隆条はやや長方形を呈し先端が前縁に接する。背面は白色短毛を密生する。頭は細かく密に点刻され微細印刻を装う。前胸背は滑らかで頭と同じに点刻されるがやや強い。上翅は点刻がより大きくて少ない。分布：トカラ諸島・屋久島。

23. チビクロテントウ

Telsimia nigra Weise

体長 2 mm。黒色，上唇・触角・頭の前部・肢は暗赤褐色。背面は灰白毛を密生する。頭胸背は小さく密に，上翅はより大きく強く点刻される。腿節線は不完全。分布：本州・九州。

24. ウスフタホシテントウ

Hyperaspis asiatica Lewis

体長 3 mm。光沢の強い黒色，上唇・触角・頭(♀では黒い)・肢(腿節は黒い)・上翅の斑紋は黄褐~赤褐色，前胸背前縁と側縁は幅広く(♀では側縁のみ)黄色。毛は全くなく，頭は小点刻を密布し，前胸背は頭よりやや大きく強く点刻されるが，両者とも上面は微細印刻を具える。上翅はより強く疎に点刻され，面は滑らか。分布：本州・四国・九州。

25. フタホシテントウ

Hyperaspis japonica Crotch

体長 1.8~2.5 mm。黒色，頭(♀では黒)・触角・前胸背の外縁紋(♂のみ)・上翅の斑紋・跗節・前腿節は黄褐~赤褐色。背面は毛なく強い光沢を有する。頭は小点刻を弱く装い，基面は微細印刻を具える。前胸背・上翅は小点刻を強く密布し，基面は滑らかである。分布：本州・四国・九州；アムール。

PLATE 104



1



2a



2b



3a



3b



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25

1. メツブテントウ

Sticholotis substriata Crotch

体長 2.8 mm 内外。赤褐色、強い光沢がある。前胸背基部中央は暗く、上翅斑紋・会合部は幅広く黒色。小楯板はごく小さく暗褐色。体は半球形に近い。前胸背は幅狭く、前縁は緩く弧状をなし前角は円い。上唇・頭前端は黄白毛を散布し、背面はやや粗く強い点刻を密布する。上翅は会合線に沿い各 2 条の粗大点刻列を具えるが中央部で終る。腿節線は不完全、先端は腹節の後縁に接している。分布：本州・四国・九州。

2. クロヘリメツブテントウ

Sticholotis hilleri Weise

体長 3.0~3.5 mm。赤褐色、小楯板・後胸の中央部は黒色、上翅周縁は黒色で縁取られ黒色と黄色の斑紋が美しい。体は半球形、背面は光沢を有し毛はない。頭胸背は強く密に、上翅はやや粗く深く点刻される。各翅は会合線に沿いやや平行な 2 条の粗大点刻列を具えるが、前方 1/4 から始まり中央部で終る。腿節線は前種に似る。分布：本州。

3. ムツボシテントウ

Sticholotis punctata Crotch

体長 2~2.5 mm。赤~赤褐色、鈍い光沢を有する。前胸背（前外縁は細く赤色）・上翅周縁と斑紋・後胸は黒色。頭胸背はやや小さく密に、上翅はより大きく疎に深く点刻される。上翅の外縁は著しく上反し、背面は毛を欠く。カイガラムシ類を捕食する。分布：本州・九州。

4. クロジュウニホシテントウ

Plotina versicolor Lewis

体長 2.5~28 mm。赤褐色、頭頂は暗色、前胸背横紋は黒色、上翅は 10 黒色紋の間に黄色の 4 紋が重なり美しい。頭は小さく、粗点刻をやや密に装う。前胸背は矩形に近く、頭より小さく密に点刻され、前縁は軽く彎曲し、外縁はほぼ単直で前角は円い。上翅は粗大点刻の間に小点刻をやや密に装う。分布：本州・四国。

5. クロツヤテントウ

Serangium japonicum Chapin

体長 1.5 mm 内外。黒色、♂は触角・肢が黄褐色、♀は上唇・触角・頭・前胸背外縁・肢が黄褐色、腹節は暗赤褐色。体はほぼ半球形、背面は光沢を具え、灰白毛を周縁に散布する。頭は小点刻を弱く、前胸背・上翅はやや粗く強く疎に点刻される。腿節線は不完全、下縁は後縁近くまで達し先端は側縁に接する。分布：本州。

6. ケシツブテントウ

Sukunahikona japonica H. Kamiya

体長 1~1.8 mm。赤褐~暗褐色、光沢を有する。頭は小さく、前胸背の広さの半分で小点刻を疎に装う。前胸背は細かく疎に点刻されるが、後縁に沿い強い点刻を具え、各点刻はやや長めの立毛を密生する。上翅は先端 1/7 に達する側縁隆条をもち、強い 11 点刻列を具え、短い立毛を散布する。他の点刻は長い立毛を装うが、前

者より弱い。点刻列は各翅中央部で不規則となり、側縁は規則的に毛を具える。分布：九州・八丈島。

7. ヨツボシテントウ

Platynaspis lewisii Crotch

体長 4 mm 内外。黄赤~赤褐色、頭前半・前胸背（前縁は狭く、前縁角は三角形に黄赤色）・上翅の斑紋と周縁・小楯板は黒色、体下は殆んど赤褐色で腿節のみ暗色。背面は金白毛を密生する。頭はかなり大きく眼の下ではより出し前縁の中央は浅く彎入し、小点刻を密布し網状印刻を具える。前胸背はやや粗く強く密に、上翅は大きく疎に点刻される。前胸板は 2 本の太い隆条を具える。分布：本州・四国；台湾・支那・ビルマ・印度。

8. ヒメアカボシテントウ

Chilocorus kuwanae Silvestri

体長 3.5~4.8 mm。光沢のある黒色、上唇・触角・上翅斑紋・附節・腹節は黄褐色。体はほぼ半球形。頭は眼の前方で横長に凹み、前縁は彎入する。粗点刻を強く密布し点刻間は鮫革状を呈し、灰黄毛を散在する。前胸背は倒三角~半円形、前縁はその両側で急に彎入する。頭より小さく疎に点刻されるが両側部の点刻間は鮫革状。上翅は粗点刻を強く具える。成虫は 3~4 月頃から現われ、幼成虫ともクワカイガラ等を捕食する。分布：北海道・本州・四国・九州；支那。

9. アカボシテントウ

Chilocorus rubidus Hope

体長 5.8~7.2 mm。光沢のある黒色、上唇前縁・附節・体下は黄褐色、上翅 2 縦紋は赤色。頭は小形、やや粗く明瞭な点刻を密布し、灰黄毛を散布する。前胸背の形は前種によく似、頭より小さく疎に点刻されるが両側部では少し大きく密に装い、軟毛が明らかである。上翅は前胸背よりはるかに幅広く、点刻は前胸背に似る。成幼虫共にカイガラムシを捕食する。分布：北海道・本州・九州；シベリア・満州・支那・ネパール・印度。

10. タカラアカボシテントウ

Chilocorus takara Nakane et M. Araki

体長 3.5~3.9 mm。黒色、ヒメアカボシテントウに似るが、上翅斑紋がより大きく、頭の点刻間は滑らかで光り、前胸背は粗点刻を密布し、上翅側板はより粗く点刻される。分布：トカラ諸島。

近似の *C. esakii* H. Kamiya が九州に、*C. amamensis* H. Kamiya が奄美諸島（沖永良部島）に産する。

11. オオフタホシテントウ

Lemnia biplagiata Swartz

体長 6.5 mm 内外。黒色、頭・上唇（♀では前縁のみ）・前胸背の前角斑紋は黄~黄褐色、触角・上翅斑紋・腹節の側縁部・附節は黄褐色。背面は光沢を有し上唇・頭先端にやや長めの黄褐毛を具える。頭胸背はやや粗く密に点刻されるが、点刻間に微細印刻を網状に装う。上翅は粗点刻をやや密に強く具える。前胸板は太い 2 本の隆条を有する。分布：九州・南西諸島；台湾・朝鮮・支那。

12. ハラグロオオテントウ

Callicaria superba Mulsant

体長 12 mm 内外。橙黄～黄褐色，頭胸背・上翅斑紋・小楯板は黒色，体下は黒く，腹節の周縁（幅広く）・肢は黄褐色。背面は強い光沢を有する。前胸背は後縁が一樣な弧状を呈し，後角は円い。外縁は殆んど真直で前角は突出する。上翅外縁は少しく上反する。頭は粗点刻と軟毛が疎にあり，前胸背はより強く密に点刻され，共に点刻間は網状印刻を具える。上翅の点刻は前胸背に似る。カイガラムシを捕食する。分布：本州・四国・九州・琉球；台湾・印度。

13. オオテントウ

Synonycha grandis Thunberg

体長 12～14 mm。黄褐～褐色，前胸背・上翅斑紋・小楯板は黒色，体下は褐色。頭は小さく前胸下にかくれ，前端に黄褐毛を疎に散布し点刻をやや粗く弱く装うが，その間は網状印刻を具える。前胸背前縁は軽く彎入し，前角はやや角ばる。上翅と共に粗点刻をやや疎に装うが浅い。分布：本州・四国・九州・奄美大島・石垣島；台湾・支那・フィリピン・印度。

14. カメノコテントウ

Aiolocaria mirabilis Motschulsky

体長 11～13 mm。背面は強い光沢を具える。上唇・頭は黒色で褐色毛を散布し，粗点刻をやや密に深く装い点刻間は微細印刻を具える。前胸背は外縁が円まり少し上反し後角は円い。黒色で両側は黄色（生時は黄白色），外縁の後半は細く黒色で縁どられる。点刻は頭より小さく弱く，点刻間は網状印刻を装う。上翅の亀甲紋は赤色，会合線・外縁は常に黒色に縁どられる。体下は殆んど黒色，附節・触角・腹節周縁は黄褐色。上翅は粗点刻を疎に装う。ab. *nigra* Kerv. (b) は上翅全体が黒色。幼虫はグルミハムシの幼虫を捕食して有益。分布：北海道・本州・四国・九州；支那・シベリア。

15. カリプソテントウ

Lemnia saucia Mulsant

体長 6.2～6.7 mm。黒色，触角・上唇前縁・前胸背と上翅の斑紋は黄褐～赤褐色，体下は殆んど黒色で腹節側縁は幅広く黄褐色。上翅外縁はやや広く上反する。頭は小点刻を密布するが弱く，その間は微細印刻を具える。前胸背・上翅は頭よりやや粗く疎に点刻され間室はやはり網状印刻を弱く装う。分布：対馬；台湾・支那・フィリピン。図は subsp. *calypso* Mulsant。

16. ダンダラテントウ

Menochilus sexmaculatus Fabricius

体長 6～7 mm。橙赤～赤色，上唇・頭（時に後縁中央に黒紋を有する）は黄色，前胸背と上翅の斑紋・会合線両側・外縁は黒色，体下は殆んど黒色で触角・肢・腹節の周縁部は赤褐色。頭胸背は小点刻をやや密に弱く装うが間室は微細印刻を具える。上翅外縁は幅狭く上反する。前胸板の隆条は太く，平行する。上翅斑紋は変化にとみ，ab. *quadriplagiata* Swartz (a) は十字形の太い黒紋を具える。b は原型，f. *insularis* Nakane et M. Araki (c) は翅端紋を欠く。分布：本州・九州・琉球；台湾・支那・印度・フィリピン。

17. チャイロテントウ

Verania discolor Fabricius

体長 3.7～4.5 mm。黄褐～茶色，前胸背斑紋・小楯板・上翅基縁・会合線両側は黒色でその内側縁は黄色く縁取られる。体下は後胸・腹節の中央部が暗褐～黒色。背面はやや強い光沢を有する。前胸背の側縁・両角は円みをおびる。頭は小点刻を弱く装い間室は微細印刻を具える。前胸背はやや粗く密に，上翅はより粗く疎に点刻される。前胸板は隆条を具える。分布：九州；台湾・支那。

18. クロスジチャイロテントウ

Verania kiotoensis Nakane et M. Araki

体長 3～3.7 mm。形・点刻は前種に似ているが次の相違がある。前胸背は黒く前側縁は黄色にやや広く縁取られる。各翅は黒色の長い縞状紋を会合線と側縁の中央に具える。体下は黒く，腹端が部分的に赤みをおび，腿節も黒い。分布：本州・九州。

19. ジュウサンホシテントウ

Hyppodamia tredecimpunctata Linné

体長 4.5～7 mm。口枝・触角・三角形の前頭部・前胸背は黄色，上翅は黄赤色，頭胸背と上翅斑紋・小楯板は黒色，体下は殆んど黒色，脛附節（爪は黒）・腹節側縁は黄赤色。体はやや平たく，眼は前胸に被われず露出する。頭胸背はやや小さく密に，上翅は粗くやや疎に点刻されるが強い。点刻間は全面に微細印刻を具える。分布：北海道・本州・九州；北朝鮮・シベリア・欧州。

20. ジュウクホシテントウ

Anisosticta kobensis Lewis

体長 3.5～4 mm。淡黄～淡黄褐色，頭胸背・上翅斑紋・小楯板・体下は殆んど黒色，胸部周縁は黄色，腹節末端部・肢は黄褐色。形は前種に似る。頭胸背はやや小さく密に，上翅はより粗く疎に点刻されるが浅い。前者の点刻間は網状印刻を具える。上唇は黄白の長毛を散布する。分布：北海道・本州・九州。

21. マクガタテントウ

Coccinella crotchii Lewis

体長 3～4 mm。黒色，触角・上唇（時に黒）は黄褐色。頭の色は変化多く全体淡黄色のもの，後縁に横長の黒紋を有するもの，黒色で眼の内側に沿い長形の 2 小黄紋を有するもの等がある。前胸背の前側縁・各翅の基部・翅端紋は黄～黄褐色，体下は殆んど黒色，各胸板の前縁中央・腹節両側・前中肢は黄褐色。背面は光沢をもち，頭胸背は小点刻を密布し間に微細印刻を具える。上翅はより粗く密に点刻される。分布：北海道・本州。

22. ヤホシテントウ

Harmonia octomaculata Fabricius

体長 5.5～7.5 mm。光沢のある黄赤～赤褐色，頭胸背・上翅斑紋・会合線両側・小楯板は黒色，体下は腹節周縁・脛附節（黄褐色）を除き黒色。体はやや長めで中高，前胸背前縁は軽く彎入し後側縁は円みをおび，両角は円い。頭胸背は小点刻を密に，上翅はやや粗く強く点刻されるが，点刻間は全面長めの網状印刻を具える。分布：本州・九州・南西諸島；台湾・支那・印度・フィリピン。

[中 根]



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14 a



14 b



15



16 a



16 b



16 c



17



18



19



20



21



22

1. テントウムシ

Harmonia axyridis Pallas

体長 7~8 mm 内外。本邦に於て最も普通で色彩・斑紋は変化に富む。var. *novemdecimsignata* Faldermann (a) は黄褐色，光沢を有し，前頭部・前胸背・上翅斑紋・小楯板は黒色，体下は殆んど黒色，口枝・触角・腹部側縁・附節は黄褐色。頭は小点刻を弱く密布し間室は微細印刻を具える。前胸背は頭より明らかに密に点刻され間室は弱く網状印刻を装う。上翅は粗点刻をやや密に装う。上唇・頭の前端に長めの金白毛を散在する。

var. *spectabilis* Faldermann (b) は黒色，上翅は 2~4 個の黄褐紋を有する。これらの他に中間移行型と思われるもの等多様である。幼成虫ともアブラムシを捕食する。分布：北海道・本州・四国・九州；琉球・樺太・シベリア・支那・朝鮮・台湾。

2. チシマテントウ

Coccinella hasegawai Miyatake

体長 6 mm 内外。背面は鈍い光沢を有する。頭は黒く，眼の内側紋は黄色，前胸背は黒く，前角紋は黄白色，上翅・触角は黄褐色，上翅斑紋・小楯板・口枝・肢・体下は黒色。頭は小形で小点刻をやや疎に装い，前胸背は小さく密に点刻される。上翅はより細かくやや疎に点刻され，斑紋は 5 個で対をなす 2 紋は大きい。全面に微細印刻を具える。分布：本州（中部高地）。

3. ジュウシホシテントウ

Coccinella quatuordecimpustulata Linné

体長 2.8~4 mm。光沢のある黒色，頭は淡黄褐色で後縁が黒く縁取られるもの，中央に幅広い黒紋を具えるもの等がある。前胸背前側縁・上翅斑紋は淡黄褐色，胸部両側・脛附節・触角・口枝は黄褐色。頭胸背は小点刻を弱く密布し，間は微細印刻を装う。前胸背前縁は深く彎入し，その中央はほぼ単直，後側縁は緩く弧状をなし，両角は円い。各翅は会合線に沿う 3 紋と外縁に接する 4 紋を有し，やや粗く密に点刻される。前胸板は平行な 2 隆条を具える。分布：本州；旧北区。

4. ナナホシテントウ

Coccinella septempunctata Linné

体長 8 mm 内外。subsp. *bruckii* Mulsant (a) は，光沢のある橙黄色，触角・口枝・頭・前胸背・上翅斑紋・小楯板・体下は黒色，頭胸背斑紋・小楯板両側の小形紋・中胸側板は淡黄色。頭胸背は細かく密に点刻され，上翅は粗点刻を密に具える。b (コモンナナホシテントウ) は原種でトカラ諸島以南；支那・シベリア・欧州に産し，上翅斑紋が小形である。分布：北海道・本州・四国・九州・琉球；朝鮮・支那。成幼虫とも諸種のアブラムシを食する。

5. ココノホシテントウ

Coccinella explanata Miyatake

体長 5.5~8 mm。黄赤~橙黄色，口枝・触角は暗褐色，頭（眼に沿った 1 斑紋・前縁は黄色）・前胸背（前角紋は黄色）・上翅斑紋・体下は黒色，中胸前角は黄色。頭は細かく密に点刻される。前胸背の前縁は中央やや突出して波状，外縁は円く前方に狭まり，黒色で細く縁どら

れる。頭より明らかに小点刻を密布する。上翅は黒紋が 9 あり，小楯板後方に不分明な黄色部をもち，やや粗く密に点刻される。分布：北海道・本州。

6. ジュウイチホシテントウ

Coccinella ainu Lewis

体長 3.5~6.4 mm。頭は黒色，眼に近く 1 黄紋があり，前胸背は黒色で前角紋は黄色，♂では前縁も細く黄色で縁どられる。小楯板は黒色，上翅は橙黄~黄赤色，小楯板両側の黄色部は明らか，11 の斑紋・体下は黒色。前種によく似るが，やや小形で前胸背黄紋が殆んど後角に達して三角形に近い。小楯板後方の黒紋は前種では三角形，本種では円形，上翅点刻が強大であること等で区別される。分布：北海道・本州。

7. ウスキホシテントウ

Synharmonia hirayamai Yuasa

体長 3~4 mm。頭は黒色で眼の内側の細長い斑紋・頭頂の 1 小紋は黄色，前胸背は黄色で基部に 4 指状に前方が分れた黒紋を具える。上翅は黄色，外縁の上反部を残し黒色の亀甲紋を具える。体下は黒色，触角・脛附節は赤褐色。頭胸背は細かく密に点刻され間室は鮫革状，上翅は粗点刻を密布する。前胸板は隆条を具える。分布：北海道・本州・四国（山地帯）。

8. ムツキボシテントウ

Protocaria scalaris Timberlake

体長 3.5~5 mm。長楕円形でやや平たい。頭は黄褐色で前後縁は黒色，前胸背は黒色で前縁・前角から後角に達する三角紋は黄褐色，小楯板・上翅は黒色で会合線に沿う各 3 紋・外縁は幅広く黄褐色，体下は黒色，口枝・肢は黄褐色。前胸背前縁は浅く彎入し両角は円い。頭胸背は細かく密に点刻されるが弱く，上翅は粗大点刻を密布する。分布：本州・九州；台湾。

9. シロトホシテントウ

Calvia decemguttata Linné

体長 5~6.5 mm。淡黄褐~黄褐色，頭胸背・上翅斑紋は淡黄色。眼は殆んど前胸下に隠れ，前胸背前縁は深く彎入し，その中央はほぼ真直，前角は三角形に突出する。上翅斑紋は個体により結合したり消失したりする。頭胸背は小点刻を密布し，上翅はやや粗く密に点刻される。5~6 月頃現われ食菌性である。分布：北海道・本州・四国・九州。（*Calvia* 亜属）

10. ジュウニホシテントウ

Calvia duodecimmaculata Gebler

体長 5~6 mm。黄褐色，頭胸背・上翅斑紋・小楯板・会合線・体下は黒色，前胸板・中胸前角・腹部周縁は黄褐色。頭はやや粗く弱い点刻を疎に具え，前胸背は粗点刻を密に強く装い間室は網状印刻を具える。上翅の会合線にまたがる黒紋は 3，大点刻を強く密に具える。前胸板は太い 2 隆条を具える。邦産 subsp. *yuasai* Nakane は原種に似るが脛節が全く黄褐色か又は脛節前後縁中央が一部暗色。分布：北海道・本州・四国・九州；シベリア・北米。

11. シロジュウシホシテントウ

Calvia quatuordecimguttata Linné

体長 4.5~6 mm。明赤褐~黄褐色，前胸背・上翅斑紋・外縁は黄色，体下は殆んど黄赤色，後胸板・腹部の中央は時に黒みをおびる。前胸背前縁から外縁にかけ狭い黄条が連なり，後角で拡大する。各翅は 7 黄紋を有し，1・3・2・1 の順に並ぶ。頭は粗点刻を深く装い，前胸背はやや小さい点刻を密布し，共に間室は微細印刻を具える。上翅は大小の点刻をやや疎に具える。ab. *scutulata* Weise (b) は上翅の地色が黒く，前胸背は中央にほぼ楕状の 1 対の黒紋を具える。分布：北海道・本州・九州；樺太・欧州・北米。

12. シロジュウゴホシテントウ

Calvia quinquadecimguttata Fabricius

体長 5~7 mm。明黄褐色，前胸背と上翅斑紋・外縁は淡黄土色。上翅は 6 淡黄円紋が 1・2・2・1 の順に並び肩部 1 小紋は不明瞭。会合線に沿う斑紋は直線状に近く並ぶ。頭は粗点刻を疎布し間室は微細印刻を装う。前胸背は小点刻を密布し点刻間は網状印刻を微かに具える。上翅は粗大点刻を強く疎布する。5~6 月頃から現われ，食菌性である。分布：北海道・本州；シベリア・支那・印度。(10~12 は *Anisocalvia* 亜属)

13. ムーアシロホシテントウ

Eocaria muiri Timberlake

体長 4~5.5 mm。橙褐~黄褐色，口枝・触角・肢・体下は同色，中胸後側板・前胸背斑紋・前角・上翅斑紋は黄白色。形・色彩等前種に似るが，半球形に近く，前胸背は 4 個の明瞭な黄白紋を有し，上翅会合線に沿った斑紋は弧状に並ぶ。頭はやや粗く強く点刻され間室は網状印刻を具える。前胸背は小点刻を密に，上翅は大小の点刻を深く疎に装う。分布：本州・九州；支那。

14. ヒメカメノコテントウ

Propylaea quatuordecimpunctata Linné

体長 3.5~5 mm。黄~黄褐色，頭・前胸背・上翅斑紋・小楯板・体下は黒色，肢は腿節に黒斑をもつ。原型は各上翅に 7 個の黒紋を有するが本邦産の個体(c)は黒紋が拡がり亀甲状を呈するものが多い。頭胸背は細かくやや密に点刻され間室は微細印刻を具え，上翅は粗点刻をより強く密に装う。subsp. *japonica* Thunberg (a) は前胸背黒紋が♂♀によって異なり，♂は前縁中央に切込があり，♀は円く突出し，上翅斑紋が小さくて明らかに分れ，肢は完全に黄色。ab. *dionea* Mulsant (b) は会合部縦紋・肩部と中央の 2 紋を残して他は消失。分布：北海道・本州・四国・九州。

15. ジュウロクホシテントウ

Neomysia nipponica Yuasa

体長 8 mm 内外。黄褐~赤褐色，背面は光沢を有する。口枝・触角・肢・体下は同色，中胸後側板・前胸背外縁(幅広)・上翅斑紋・外縁(肩部から約半分)は黄白色。頭は金白毛を散在し，粗点刻をやや疎に深く装う。前胸背前縁は緩く弧状をなし外縁・前後角は円みをおびる。上翅は長三角形や多角形の黄白紋が 1・3・2・1 の順に並び，時に 3・4 紋が結合する。前胸背・上翅

は小点刻をやや密に装い，点刻間は網状印刻を具える。分布：北海道・本州・九州。

16. カサイテントウ

Neomysia kasaii Kurisaki

体長 6~7.5 mm。黒色，眼の内側紋・前胸背外縁(幅広)・上翅条紋は黄色，体下は殆んど黒色，中胸後側板は黄白色，口枝・触角・脛附節・腹節周縁は褐~赤褐色。頭は灰黄毛を散布し粗点刻を疎に装う。前胸背は小点刻を密布し，前縁は深く彎入し中央部はほぼ真直，外縁はかなり強く上反する。上翅は粗大点刻をやや疎に具え，点刻間は網状印刻を装う。分布：北海道；シベリア。

17. ウンモンテントウ

Anatis halonis Lewis

体長 8~9 mm。黄褐色，頭(眼の横に黄色紋)・前胸背・上翅斑紋・小楯板・体下は黒色，中胸側板は黄白色，肢は黄褐色。頭は黄褐毛を疎に散布し，やや大きく疎に点刻される。前胸背は前縁中央部と外・後縁がほぼ真直でほぼ梯形をなし，板面は細かく密に点刻される。間室は頭と同じく微細印刻を具える。上翅は大小の点刻をやや密に装い，黒紋は黄色環をもち，2・4(3)・3・1 の順に並び翅端の横紋は常に黄色，時に黒紋は一部消失する。分布：北海道・本州・四国・九州・千島；樺太。

18. キイロテントウ

Illeis koebelei Timberlake

体長 4.5 mm 内外。黄色，頭胸背は黄白色，口枝・触角・肢・体下は淡黄褐色，前胸背 2 紋は黒色。頭は眼まで前胸下に引込み，黄白毛を疎に，粗点刻をやや疎に装う。前胸背前縁は浅く彎入し，後縁中央は緩く後方へ突出し，外縁は上反し，ここと前縁はやや透明。黒紋の中間前方に不明瞭な倒三角形の黄褐紋をもつ。小点刻を密布し，頭と共に間室は長めの網状印刻を具える。上翅外縁も上反し，粗大点刻を強く密に装う。5 月頃から現われ，諸種の白濁病菌を食する。分布：本州・四国・九州；台湾。

19. シロホシテントウ

Vibidia duodecimguttata Poda

体長 3~4 mm。黄褐~明赤褐色，頭大半・前胸背・上翅斑紋は黄白色，体下・肢は黄褐色。頭は眼の半ばぐらいまで前胸下に隠れ，粗点刻を弱く装い黄白毛を疎に散布する。前背板前縁は一様に緩く彎入し，外縁は上反する。全面に小点刻をやや密に装い，上翅黄白紋はほぼ 2・1・2・1 の順に並び，外側の 2 紋は外縁に接する。粗大点刻を強く密布する。4~5 月頃から現われ，白濁病菌類を食する。分布：北海道・本州・四国・九州；朝鮮・シベリア・欧州。

20. シロジュウロクホシテントウ

Halyzia sedecimguttata Linné

体長 5~7 mm。明黄褐色，頭・前胸背・上翅斑紋は黄白色，体下・肢は黄褐色。前胸背前縁は中央部が緩く彎入し，外縁は幅広く上反する。頭胸背の点刻は小さくやや密，上翅はやや平たく，外縁はかなり上反する。黄白紋は 8 対で 1・2・2・2・1 の順に配列し，外側の 2 紋は外縁に接する。粗大点刻を強く密布する。分布：北海道・本州・四国；シベリア・小アジア・欧州。

〔中 根〕

PLATE 106



1a



1b



2



3



4a



4b



5



6



7



8



9



10



11a



12



11b



13



14a



14b



14c



15



16



17



18



19



20